東京都立川市における学童待機児童問題の現状と課題
小１の壁打破を目指して

The current situation and challenges of waiting lists for schoolchildren in Tachikawa City, Tokyo.
Aiming to break down the first grade barrier

チーム　小１の壁考察班
岩本波瑠人，小俣芽以，小滝健太，畠山結実香，山口さや香
指導教員　佐藤拓也

中央大学　経済学部　佐藤拓也ゼミ

キーワード：小１の壁，待機児童，学童，小学校，立川市

1. はじめに

本ゼミナールでは現在の日本において深刻な問題の1つである「小１の壁」について、その改善策を検討してきた。その中で私たちは東京都立川市に焦点を当て、当該市のデータからの学童待機児童の現状の調査、学童保育所 2 カ所でのフィールドワークを伴う調査を通して現状を把握し、現場が何を求めているのかを確認してきた。本発表では、フィールドワーク等を実施して明らかとなった立川市の学童待機児童問題、並びに小１の壁問題の改善策の提案について発表する。

２．問題の基本的概要

学童待機児童問題とは、学童保育所に入所申請しても、学童保育所が受け入れられる定員に限りがあるために入所出来ず、順番を待つ児童が発生する問題である。また、小 1 の壁とは、子供が小学生になるとそれまでに比べて、仕事と子育ての両立が困難になることを指す。現在多くの親が、小学生の帰宅時刻と親の退勤時刻にギャップが生まれることで、退職や転職を強いられている状況が、問題となっているのである。

３．立川市の現状

令和 4 年度立川市学童クラブ待機児童対策計画を元に作成した下の図によれば、小学生児童数に変化はあまりないが、登録児童数は増加傾向にあり、待機児童数は令和２年度で一時的に増加したが、減少傾向にある。立川市では、待機児童及び小 1 の壁打破のために様々な政策を打ち出している。子供の預かりをメインとした施策としては、放課後子ども教室くるプレ、サマー学童保育所・児童館ランドセル来館が挙げられる。

図表　立川市の現状

	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
小学生児童数	8,613	8,625	8,637	8,599	8,630
増減		12	12	▲38	31
登録児童数	1,684	1,735	1,775	1,843	1,853
増減		51	40	68	10
待機児童数	217	213	159	202	155
増減		▲4	▲54	43	▲47

出所：「令和 4 年度立川市学童クラブ待機児童対策計画」より、作成。

４．フィールドワークの概要

私たちは、立川市内の学童保育所 2 か所において、どのようなことが問題となっているのか、その実態についてフィールドワークを行った。今回協力してくださったのは、高松・高松第二学童保育所と、曙学童保育所の 2 つである。なお、インタビュー質問事項については、一部内容の割愛や追加を行った関係で両所でやや異なっている。

調査の際に行った質問は、概ね以下の通りである。①学童の１日のスケジュールはどのようなものか、②学童に入る際の選考基準はどのようなものか、③宿題を教えるなど、学外の生活サポートはしているか、④提携学校の教諭と情報共有しているか、⑤保護者から受ける質問にはどのようなものが多いか、⑥現行の制度について改善してほしい点はあるか

５．調査まとめ

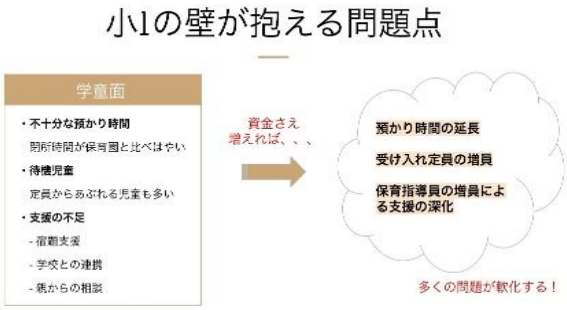
高松学童：高松学童には 3 つの目標がある。子どもに気持ちの良い時間を過ごしてもらう、学校や学童であったいやなことを持ち帰らせない、子どもと保護者両方に近い存在でいる。これらを守るために、また、今のような密なやりとりを今後も継続するためにも、指導者の不足、施設環境の改善が必要不可欠である。

曙学童：曙学童では、提携学校の副校長、校長、学童を含めた支援ネットで 2 ヶ月に 1 回会議を行っているものの、以前はさらに学校の 20 分休みの際に学童教諭が学校に赴き、担任と情報交換を行っていたこともあった。よって改善したい点として、支援ネット以外の密なやりとりを増やすこと、指導員数の増員、入所時の虚偽申告の横行を防ぐこと、公営ではあるが風通しを良くすること、の主に 4 点が挙げられた。

６．考察

調査によって、どちらの学童保育所も指導員数や敷地面積の不足が大きな問題となっていることが判明した。しかし、こうした数値は現場での努力で改善できるものではなく、問題を解消するためにはまとまった資金投入が必要である。学童の予算は保育所と比較しても極端に少ない。したがって小 1 の壁を改善するためには、まず学童に当てられている予算配分自体の大幅見直しが必要なのではないだろうか。ここで改めて、小 1 の壁が抱える問題、なかでも学童の面に関わる問題について立ち返ってみると、そのどれもが予算を増やすことで緩和可能であることがわかる。例えば待機児童については、指導員数と設備面積を増やすことで受け入れ可能人数が増え、改善される。また、児童の不十分な預かり時間や支援の不足についても、指導員数を増やし規定を改正編することでより長い時間、質の高い支援を提供することができるのではないだろうか。

図　小1の壁が抱える問題点の改善策



このように、学童に当てる予算を拡充することで子どもの居場所としての安全面が担保されると同時に、延長保育や家庭のケアまで、幅広いサポートに手を回すことができる。学校と家庭の架け橋としての役目も果たす学童の質が向上することで、単に子どもの居場所を守る役割だけでなく、親の負担を間接的に減らすことも可能となるのではないだろうか。

７．終わりに

実際に立川市内でフィールドワークを行ったことで、学童の現状を知ることができた。また、現状を知ったことで、小 1 の壁問題への改善策として、学童における予算に着目することの必要性が明らかとなった。

参考文献

[1]東京都福祉局「令和 4 年度立川市学童クラブ待機児童対策計画」
[2]立川市「令和5年度予算案の概要及び主要施策の概要」